

**土岐氏** 大学等における新技術の研究・開発において、分野にもよりますが、新技術にすぐに結びつく研究は、それほど多くないと言えます。国内的には学会の研究委員会で、北海道では、土木技術会での研究活動、産業界との共同研究などが、公共事業に新しい技術を大学等から移転する良い機会と考えています。

産官学連携による社会貢献は、大学等の果たすべき重要な責任の一つです。大学等では共同研究や受託研究をはじめ国内外との、地域性を活かした多様な連携を進めており、地域社会の発展への貢献に力を入れています。



また大学等では、研究成果を研究者が分かるようにして公表しています。大学の共同研究センター等では、研究実績や産業界で直ちに活用できる研究成果を提供しています。NETIS同様に、このような情報を産官の方々には機会を見てご覧いただき、活用をお願いしたいと思っています。

産官学の一層の連携、情報交換、共同研究の実施が、公共事業を行う際の新技術の活用と創出が盛んになる最善の方法と考えています。

## 新技術開発・活用の 現状と問題点

**葛西** 引き続き、新技術開発の今後の方向性について進めていきたいと思っています。

**松永氏** 工事の中で新技術を採用する際、コストダウンが主になっているようですが、現状では国際的に木材自体の価格がかなり上がっていることで国産材に注目が集まっておりますが、現在の価格では切った木材の再植林がなされていないなどの実情があります。間伐材についても現状の価格では難しいところまできているのが実態ですので、今後は間伐材が余っていると言う認識ではなく道産材を総合利用していく考え方が必要と思われると思います。このような状況の中、新商品の開発に力を入れています、工法や技術面で新商品を開発し、トータルでのコストダウンと環境保全に努めていきたいと考えています。

**橘井氏** NETISに登録した技術で積極的に発注して頂きたい。また、業界に対してもっと周知徹底するような説明会を開いて頂きたい。「バイオラックストイレ」に関しては産学連携で開発しているが“官”が抜けてしまっていて、行政に反映しておらず反省しています。また、NETIS登録情報を積極的にPRする場所を設けて頂きたい。

**百瀬氏** 現在のNETISに登録されている技術情報はまだまだ玉石混合であり、この中から優れた技術を選別し、有効に活用するためには、開発者の新技術のPR、普及に努める意欲、発注者の新技術への理解と採用に向けた努力、施工者の新技術への理解、そして、この三者の協力が不可欠と思っています。また、建設業協会としても各企業が新技術の開発に積極的に取り組めるようにバックアップしたい

と考えています

要望意見として4つ申し上げます。

- NETIS関連の申請等の書類作成には相当の知識と労力と時間を要するので、出来るだけ簡素化していただきたい。あわせて記載方法等の指導をお願いしたい。
- 申請者、施工者が負担する施工費、調査費等について、費用負担の軽減を検討願いたい。
- NETISの施工事例を増やすためには、試行申請型、施工者希望型によって対応していくことのできる企業が限られているので、まず当面は、発注者指定型によって新技術を積極的に取り入れていくのが現実的と考える。
- 現在、NETISは直轄工事が対象であるが、自治体、民間への普及もお願いしたい。

**土岐氏** 新技術への意見として5点ほど申し上げます。

- コストが強調されていますが、維持管理のし易さ、使用し易さ、環境問題への適切な対応等を、どのように評価するか、誰もが納得する権威のある評価方法の確立を期待しています。
- 研究技術開発費に占める、国費支援の割合が他の先進諸国に比べ少なく、国はもう少し力を入れて頂きたい。
- 新技術の活用に関わる規制緩和に関して、早めの対応を望みます。
- 新技術に関する産官学の交流は、様々な面からみて極めて有効であります。
- 官に、新技術育成の強いリーダーシップをとって頂きたい。



**宇佐美氏** 今日のお話を聞くと、厳しい状況の中、研究開発に意欲のある企業があり、今後も意欲を持ち続けてほしいと思いました。北海道では、新技術提供システムのPR不足を認識しており、企業と共に一層更新を進めていきたい。

また現在イメージが良いとはいえない建設業のイメージを、サミットへ向けて環境を踏まえた新技術等を考えるなどしてイメージアップにもつなげていければと考えております。

**坂場氏** 新技術というとマニアックなイメージがあると感じていましたが、今日、改めていろいろなお意見を聞いて、新技術とは裾野が広いなと思ったところです。国としての立場で何が出来るか、なかなか難しいですが、仕組みを作るといことが



国の大きな役割であると認識しています。

また、これから国として先導的にやっていける部分がかかを改めて検討します。今日は関係者の方々、多数集まって頂いてますのでこのような場を有効活用させて頂き、今後ともお知恵を拝借してやっていきたいと考えています。

**葛西** 以上で、本日予定していました内容が終了致しましたが、情報共有や仕組みづくりなど、まだまだ課題がありますが産学官が連携していくことで新技術の活用を進めていければと考えております。

これで本日の意見交換会を終了させて頂きます。ありがとうございました。

## 質疑応答

**古賀** 今日は聴講の方が多数みえております、せっかくの機会ですから質問の時間を設けたいと思います。どなたか質問ありましたら挙手願います。

**聴講者（北海道開発局技術管理課 石橋課長）**

本日はいろいろなお話、ありがとうございます。新技術の活用につきましてはなかなか目標に到達していないので、これからも積極的に発注者が新技術を取り入れることが重要と考えています。その中でコストの部分をごどのように比較していくか、比較する対象技術設定をよく考えなければならないと感じました。

橘井様の方へ質問させて頂きたいのですが、バイオラックトイレを開発した際の発想として、北海道だからこそという部分があればお願いします。

**橘井氏** トイレに関しても木くずを使えばふん尿が消えるというのは生ゴミ処理機の発想からあり、私が発明したというより先人の知恵としてあったが、なかなか実用可能な状態にはなっていませんでした。北海道は寒いので水を使わないトイレがあればとても良いという発想でした。

また、海外で水が不足している場所でも使えるということと色々な専門家の方々がいらっしゃってトイレというのは裾野が広いなと感じています。

**聴講者（北海道開発局小樽開発建設部 櫻井築港課長）**

2点ほど意見なのですが、私達はどちらかといえば新技術を現場で活用する立場なのですが、新技術を取り入れる際に耐久力がどうなっているのかということ、それがどのようにコストに反映されているのかということが判断材料になっています。良い資材でも耐久性について理解が難しいものは判断が難しいという点があります。もう1点としましては、コスト縮減のみが目的ではなく、本来の技術の効果が発揮できたかという観点での評価の視点も重要であると思います。

**古賀** これで、新技術活用促進フォーラム2007北海道地区意見交換会を終了致します。本日はありがとうございました。



## Profile

### 百瀬 治（ももせ おさむ）氏

北海道大学土木工学科修士課程を修了後、運輸省に入省。昭和52年からは、北海道開発局において主に港湾、漁港整備を担当し、平成15年7月、北海道開発局港湾空港部長を最後に退職。その後、財団法人港湾空港建設技術センター北海道支部長を経て、現在は北海道機械開発株式会社副社長。

### 橘井 敏弘（きついとしひろ）氏

北海道立北見北斗高等学校を卒業後、昭和51年に旭川市の株式会社正和照明商事に入社。昭和63年8月、社名を現在の正和電気株式会社に変更と同時に、代表取締役就任、現在に至る。現在、社団法人発明協会北海道支部副支部長。経済産業省第2回ものづくり日本大賞の優秀賞他多数受賞経験を有す。

### 松永 秀司（まつなが しゅうじ）氏

北海道立芽室高等学校を卒業後、帯広市の株式会社サトウに入社し、主に付加価値商品開発や営業部門を担当。本年6月に常務取締役就任、現在に至る。

### 土岐 祥介（とき しょうすけ）氏

北海道大学大学院工学研究科を修了後、北海道大学教授、北海道工業大学教授などを経て、現在、北海道大学名誉教授、北海道工業大学名誉教授、北見工業大学監事、社団法人寒地港湾技術研究センター会長等の役職にある。平成17年より北海道開発局が設置した新技術活用評価委員会の委員長を務めている。

### 宇佐美 光宏（うさみ みつひろ）氏

北海道工業大学建築工学科を卒業後、北海道職員として主に河川関係事業に従事。室蘭土木現業所、静内総合治水事務所長を経て、本年6月より現職で技術基準、新技術、建設リサイクル等の業務を担当。

### 坂場 武彦（ばんば たけひこ）氏

早稲田大学理工学部を卒業後、北海道開発局で主に道路関係事業に従事し、国土交通省北海道局地政課開発専門官を経て、本年4月より現職で、公共工事における新技術、施工管理、品質管理等の業務を担当。